

平成30年度学校評価分析

1 回収率

(1) 中学生 91.7% 保護者88.6%
 (2) 高校生 1年生87.9% 2年生76.1% 3年生72.8% 保護者77.3%

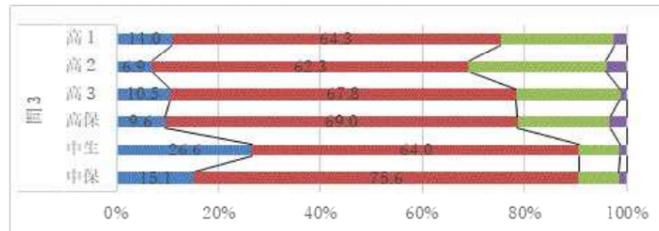
2 評価結果及び分析について

※表の数字は、「よく当てはまる」と「だいたい当てはまる」と回答した割合(%)
 ※表の「中生」は中学生、「中保」は中学校保護者、「高保」は高校保護者
 ※横棒グラフは(白黒印刷では左から順番)、青=よく当てはまる 赤=だいたい当てはまる
 緑=あまり当てはまらない 紫=あてはまらない 水色=よくわからない

○県立学校共通質問事項

【学習指導(学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている)】

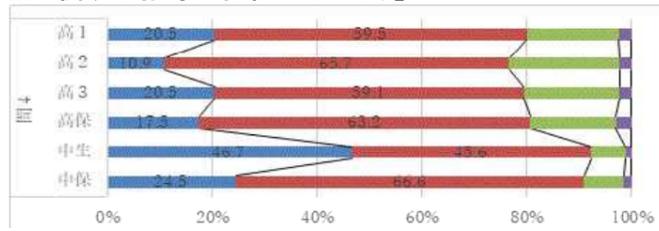
中生	90.6	高2	69.2	中保	90.7
高1	75.3	高3	78.3	高保	78.6



(分析) 高校1・3年における評価に比べると高2はやや低めの評価となっている。最終学年に向けて進路意識を高める必要がある。また、進路と学習意欲との関連についても、各学年、各教科で更に子細に検討し、意欲を引き出す授業の在り方を模索したい。

【生徒指導(挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている)】

中生	92.3	高2	76.6	中保	91.1
高1	80.0	高3	79.6	高保	80.7



(分析) 概ね昨年度並みの結果となった。学習指導・進路指導の根本はまず生活指導から、の基本方針を全学年に浸透させ、黎明生の品位を保ち、日々の生活に充実感が得られるようにしていきたい。

【進路指導(進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている)】

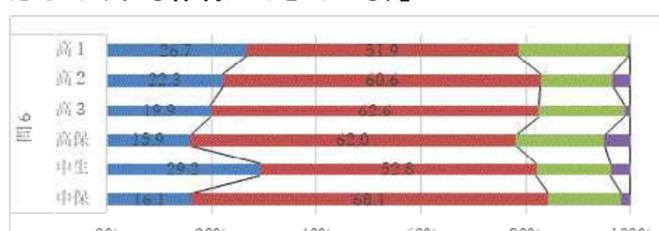
中生	87.8	高2	81.6	中保	69.1
高1	79.6	高3	83.6	高保	80.4



(分析) 昨年度と比較して、多少の上下の変動はあるものの、おおむね昨年同様、高い評価を得ている。新入試への対応を含め、今後もこの評価が下がることのないよう、いっそう充実した進路指導を目指してゆきたい。

【教育相談(教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている)】

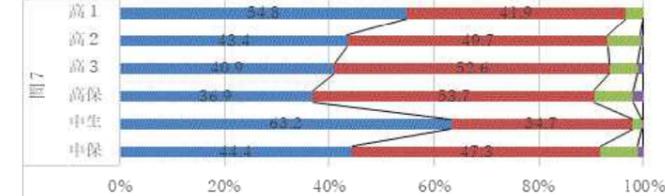
中生	82.0	高2	82.9	中保	84.2
高1	78.6	高3	82.5	高保	77.9



(分析) 高2を除いて昨年度と比してポイント減が見られる。中でも目立つのは中学生で約10p減である。教育相談体制としては、昨年度と変わりはないので、希望通りに相談が受けられないことや、教員への声のかけづらさがあるのかもしれない。教員側はいつでも相談に乗ることを生徒に知らせたい。

【部活動(学校として、部活動は活発に行われている)】

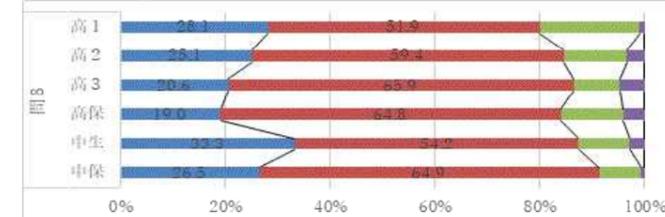
中生	97.9	高2	93.1	中保	91.7
高1	96.7	高3	93.5	高保	90.6



(分析) 昨年度と同様、高い数値となった。今年度は、特に旧校地後にグラウンドが完成し、充実した施設設備のもと、活発な部活動がおこなうことができた。また、運動部・文化部ともに東北大会全国大会へ出場するなどの活躍もあった。

【生徒会活動(学校として、生徒会活動は活発に行われている)】

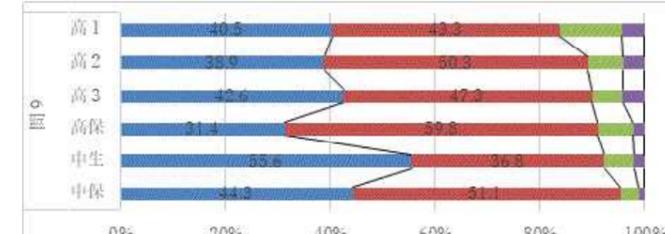
中生	87.5	高2	84.5	中保	91.4
高1	80.0	高3	86.5	高保	83.8



(分析) 昨年度は生徒の評価が90%を超えたが、今年度はそれを下回った。魅力ある自主的な活動や対外的なボランティアなど、執行部を中心に活動しているものの、全生徒にその情報が広がっていないことを課題としてとらえていきたい。

【学校行事(有意義な学校行事がある)】

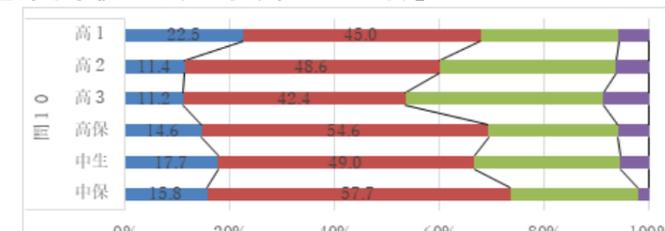
中生	92.4	高2	89.2	中保	95.4
高1	83.8	高3	89.9	高保	91.2



(分析) 昨年度と比較すると、高3生の落ち込みが目立つ(昨年比-4%)。高2生がやや高くなった結果、高2生と高3生であまり差がないという例年とはやや異なる傾向がみられた。本来、学年が上がるほど学校行事では中心的な存在になっていくことが多いが、今年は高3生の中に、どちらかといえば学習活動に比重を置いたか、中心的存在にはならずに行事に参加した生徒がやや多かった可能性がある。それ以外は昨年度とさほど大きな差はみられなかった。中学生および保護者の評価は変わらず高い。中学生が様々な行事に意欲的に取り組み、成長していることを実感できている様子が見える。

【特色ある学校づくり(地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる)】

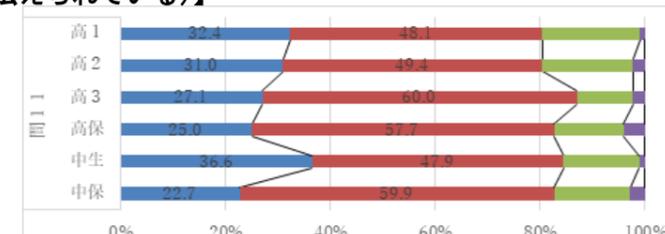
中生	66.7	高2	60.0	中保	73.5
高1	67.5	高3	53.6	高保	69.2



(分析) 高1と高2の探究学習はこれまでのSSHの取り組みを上手く継続させている。高1では「大崎耕土」に関連する探究学習が新たに実施され、メディアにも注目される活動となった。高2では探究学習の成果を公開授業研究会で発表するなど発信性も高めてきた。このような活動の成果から高1高2の評価ポイントが昨年よりも増していると考えられる。中生と高3の評価ポイントが減っているのは、「学校行事での充実感や達成感」をさらに上げられる工夫が求められていると真摯にとらえて、各行事のバージョンアップを図るべきである。

【防災教育(災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている)】

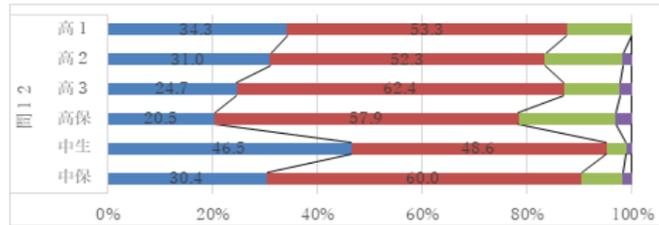
中生	84.5	高2	80.4	中保	82.6
高1	80.5	高3	87.1	高保	82.7



(分析) 昨年度と比べて全体的に低くなっているがおおむね8割を超えているので周知されていると判断する。年度初めの防災カード・防災連絡版等での注意喚起は効果があったと考えており、今後も継続していきたい。年2回の避難訓練の他に予告なしに休み時間での訓練を取り入れたいと考えている。台風や集中豪雨による浸水についての災害が増加傾向にあるので、ハザードマップ等を活用し注意喚起を取り入れていきたい。

【開かれた学校づくり（学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている）】

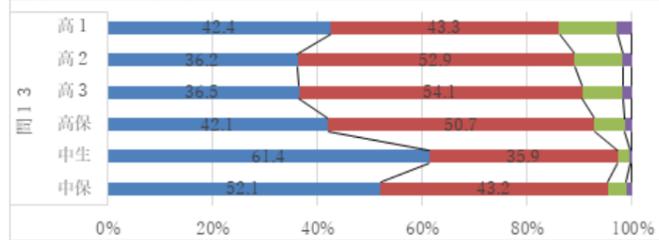
中学生	95.1	高2	83.3	中保	90.4
高1	87.6	高3	87.1	高保	78.4



（分析）全般において概ね良好な評価となった。高校保護者が80%を切っているが、生徒を通じての配付形態を取っていることで、保護者の手元に届いていない可能性が高い。上の棒グラフの「よく当てはまる」を見ても高校も中学校も、生徒と比較してかなり低いことが分かる。各学年をはじめ、白梅通信や図書館便り、生徒会発行のウメボシなど様々な情報発信が本校では行われている。このことを考慮しても、保護者の評価が生徒より低めに数値するのは、確実に保護者の手元に届かせる手立てがあると良いということだろうか。黎メールなどで発行した旨を周知するなど、配付時のもう一工夫ができれば良いのかもしれない。

【施設整備（校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている）】

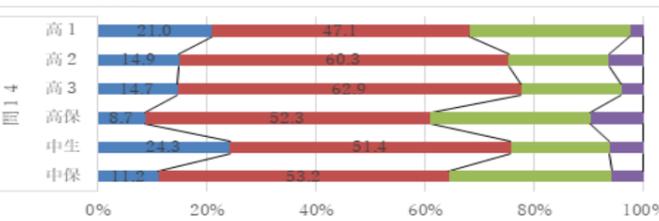
中学生	97.3	高2	89.1	中保	95.3
高1	85.7	高3	90.6	高保	92.8



（分析）平成30年1月に新グラウンドの供用が開始されたことにより、全ての調査対象で評価が上がっている。適切な状態での維持管理に今後も努めていきたい。また、自由記述を見ると、第1体育館や白梅会館などの古い建物の改修について意見が出されている。新校舎等とのギャップが大きいためと思われるが、安全面、衛生面に配慮しながら、計画的な改修に努めていきたい。

【いじめ対策（学校として、いじめ問題に対して取組んでいる）】

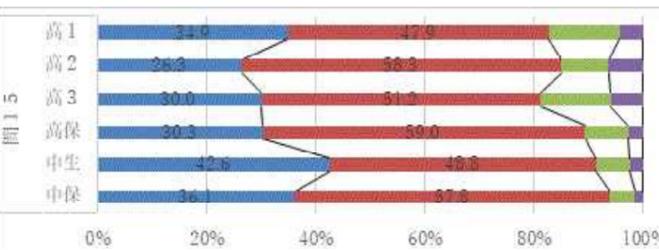
中学生	75.7	高2	75.2	中保	64.4
高1	68.1	高3	77.6	高保	61.0



（分析）生徒・保護者とも数ポイントずつ上昇している。今年度は、ネット被害防止・いじめ防止の両講話に加え、いじめの取り組みを時系列で示したプリントを配布した。そして、家庭用いじめチェックリストを配布し、家庭での関心を持ってもらうような試みも加えた。

【総合満足度（学校生活は充実している）】

中学生	91.4	高2	84.6	中保	93.9
高1	82.8	高3	81.2	高保	89.3

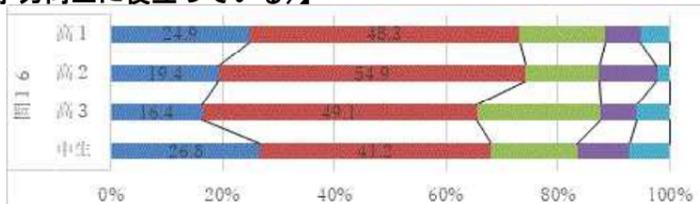


（分析）中高生徒・保護者ともに概ね高い数字となっている。特に、中学校については生徒・保護者ともに9割を超えた。高校3年生徒の満足度が最も低い結果になっているが、学習指導や進路指導、部活動や学校行事の項目については高い数字となっており、総合満足度が低い原因については、アンケートを採るなどして、もう少し詳しい分析が必要かもしれない。

○本校独自質問事項

【2WT（ツーウィークテストは基礎学力向上に役立っている）】

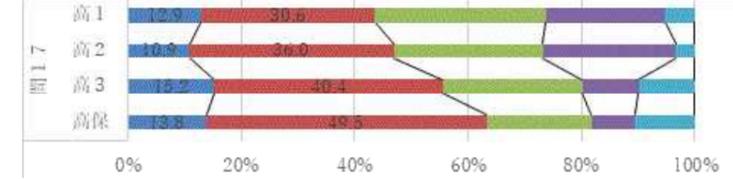
中学生	68.0	高2	74.3
高1	73.2	高3	65.5



（分析）（中）昨年度と数値にあまり変化はないが、評価は今ひとつと受け取れる。2WTの実施方法や内容等の改善に努めたい。（高）昨年評価の低かった高1が、高2に上がりその評価が1割以上上昇した。再テストや再テストなど教科での徹底指導が学習意識に変化を与えたとも考えられる。学年のみならず各教科でも結果を分析し、その効果的な在り方を引き続き検討していきたい。

【土曜塾（土曜塾は学力向上に役立っている）】

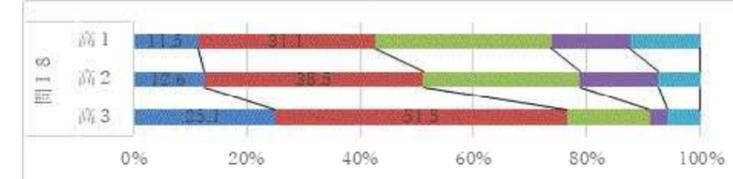
高1	43.5	高3	55.6
高2	46.9	高保	63.3



（分析）土曜塾のあり方については、毎年検討を重ね、改善を図ってはいるが、決め手に欠け、それがこの評価の低さにつながっていると考えられる。生徒・教員双方の意識を踏まえ、もう一度ゼロベースからの検討をする時期に来ているのかもしれない。

【課外（長期休業中の課外や平日課外は進路達成に役立っている）】

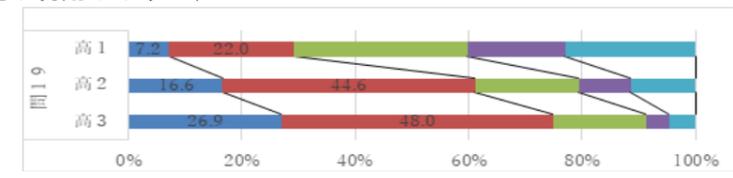
高1	42.6	高3	76.6
高2	51.1		



（分析）高1高2高3と徐々に評価が高まっているのは、生徒の進路意識の高まりを考えると、当然あるべき姿ではあるが、すべての学年で満足度は高くない。長期休業自体が昔と比べて短くなっており、必然的に課外の日数が減っている。その中であっても効果の上がる課外のあり方を、学校全体で検討してゆかなければならない。

【進路室関係（進路資料室、自習室は利用しやすい）】

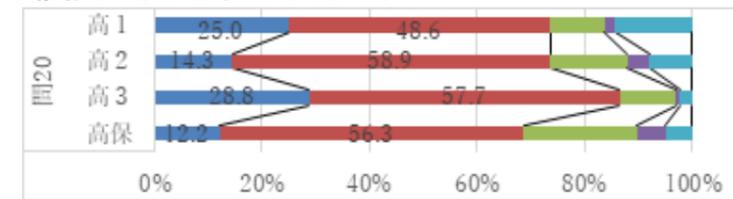
高1	29.2	高3	74.9
高2	61.2		



（分析）高1高2の満足度の低さは、おそらく自習室の利用がしにくい所から来ていると思うが、スペースの関係で高3生が中心となるのはやむを得ないところでもある。ただし、閲覧室（資料室）の利用については、高3生優先ということではないので、もっと下級生も利用しやすい雰囲気を作り、利用を促すなどしてゆきたい。

【進路情報（進路を考える上で必要な情報が十分に提供されている）】

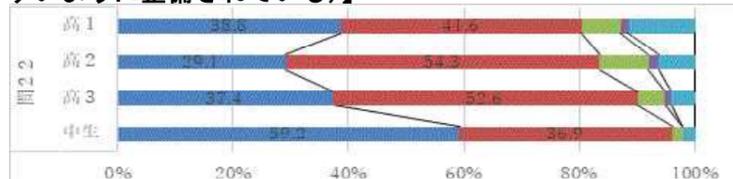
高1	73.6	高3	86.5
高2	73.2	高保	68.5



（分析）生徒の数字はまずまずであると思う。担任の先生をはじめとする教員からの口頭でのアドバイスのほか、数多くの資料も使って情報発信をしてきた成果と捉えたい。しかし保護者の方々の満足度は例年よりわずかに向上している程度で、あいかわらず低い。今年度は保護者進路ガイダンスの案内を黎メールでも流したが、あまり効果はなかったか。

【図書館（学校図書館は、利用しやすいように整備されている）】

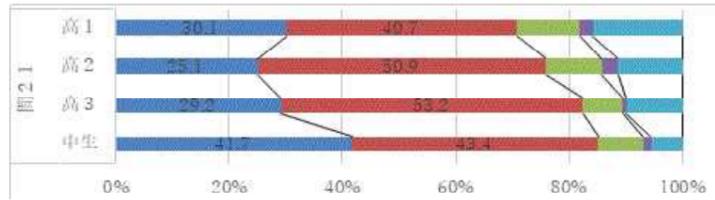
中学生	77.3	高2	83.4
高1	80.4	高3	90.0



（分析）高3生では90%となるなど、全体的に高い評価を得ている。特集コーナーをもうけたり、貸し出し・返却・蔵書検索にコンピュータを利用できることや、図書委員も活発に活動をしていて、書籍の紹介をタイムリーに行っている結果であると思われる。また、生徒の皆さんの協力して使う姿勢もあってのこと、感謝申し上げる。今後も継続して利用の活発化につとめたい。また、中学生にとっては蔵書の充実度は96.1%であるが、利用については77.3%と結果が乖離しているところの分析を進めたい。

【図書館（学校図書館の蔵書は充実している）】

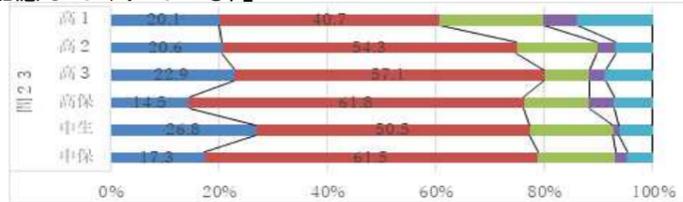
中生	96.1	高2	76.0
高1	70.8	高3	82.4



（分析）今年は読書週間を考査後にもうけるなどの対策を行った。中学生で10%、高2で3%、高3で8%向上した。高1だけ低くなってしまった。読書傾向と図書館利用と関係性が深くなっているのも、また読書の重要性は言うまでもないので、今後は高1への読書啓蒙と他学年のさらなる高みを目指して頑張りたい。

【心身の健康への配慮（学校は心身の健康に十分に配慮してくれている）】

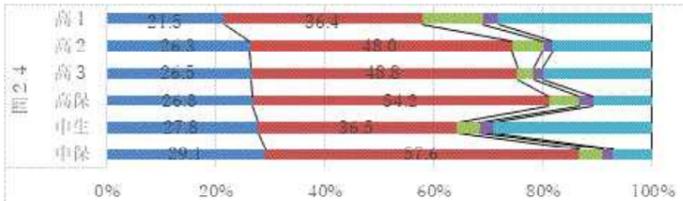
中生	77.3	高2	74.9	中保	78.8
高1	60.8	高3	80.0	高保	76.3



（分析）昨年度と比べて軒並みポイントが減少している。特に中学生とその保護者、高校1年生である。中学生についてはカバンの重さが生徒の負担となり、登下校時の安全確保の上でもなんとかならないかと声があった。中学校では教科書等をロッカーなどにおいておくことを可とし、負担軽減を図ることで対応している。また、プール授業が9月の文化祭以降に集中したことも要因であると思われる。

【事務室の対応（事務室は学校窓口として親切に対応している）】

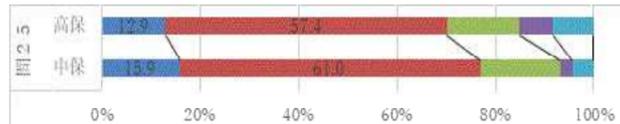
中生	64.3	高2	74.3	中保	86.7
高1	57.9	高3	75.3	高保	81.0



（分析）中高保護者からの評価は多少上がっている。電話対応を含め事務手続きの説明など可能な限り丁寧な対応に努めた結果と受けとめている。全体を見ると中学生徒と高1生徒の落ち込みが顕著である。事務室との直接の関わりが希薄なためとも思われるが、黎明での生活に不慣れな生徒達に不親切な点がなかったかを検証していきたい。

【交通安全指導（交通安全指導等の安全指導が十分に行われている）】

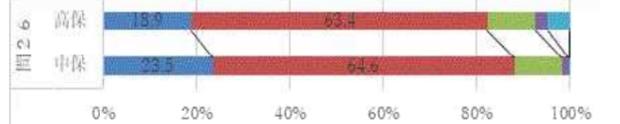
中保	76.9	高保	70.3
----	------	----	------



（分析）決して高い数値ではないが、一定の理解を得られたと感じる。苦情も寄せられたこともあったが、その都度SHR等で指導をしており、重大事故につながるようなケースはみられなかった。

【授業参観や面談（授業参観や面談等は参加しやすい日程で組まれている）】

中保	88.1	高保	82.3
----	------	----	------

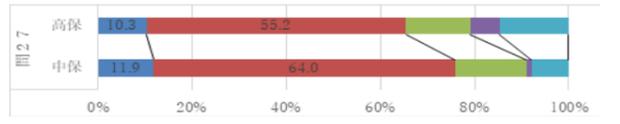


（分析）（中）昨年度から一部変更して実施した日程について、昨年度同様の評価をいただいた。一方、その日程についての意見もあり、今後に向けて一層の検討を加えたい。

（高）例年同様、比較的高い評価であった。授業参観では、授業公開週間の他、各種研究授業も含め、通信、HP、黎メール等の活用を通しての呼びかけが功を奏したと考えられる。面談では、昨年同様、午前授業・午後面談の期間を設けた上で、各担任が柔軟に対応した結果であると思われる。

【PTA活動（保護者と教職員の連携が密で、有意義なPTA活動が実施されている）】

中保	75.9	高保	65.5
----	------	----	------



（分析）（中）授業参観や学年PTA親子行事等は今年度も参加率は高く、その点では有意義なPTA活動を実施できたと思われる。今後も保護者と教職員との連携を密にして、有意義な活動になるよう努めたい。

（高）昨年度より進路対策委員会が新しいかたちの進路講演会を開催し、保護者の中から進路についての情報収集に積極的な方が増えており非常に良い傾向であると考えています。中高合同で実施している調査広報紙委員会の活動は、県内のコンクールで毎回入賞しており、昨年度は東北大会を経て全国大会でPTA広報紙優良作品として展示されました。健全育成委員会の挨拶運動等活発に行われていると考えています。4月の総会への参加率の向上に努めていきたいと考えています。